

2021年度

京都ヒューマン賞



2021年度 京都ヒューマン賞 受賞者・団体紹介



同志社大学名誉教授
一般社団法人京都ボランティア協会
名誉会長(前理事長)

おかもと たみお
岡本 民夫 氏

社会福祉研究における日本を代表する学者であるが、アカデミズムに閉じこもることなく、社会的問題を抱えている人やその支援に当たる専門職の葛藤や苦悩に寄り添い、同じ目線で自身の知見を活かし活動してきた。学生時代に朝日新聞厚生文化事業団のキャンプカウンセラーとして、日本で初めての視覚障がい児キャンプに参加。このとき、キャンパーの「明かりをつけてください」という言葉は生涯忘れることのできない言説となった。大学卒業後は、浅香山病院(大阪府堺市)の精神医学的ソーシャルワーカーに就任し、医師、臨床心理士たちと臨床チームを作り、トータルケアの基礎の構築に関与した。その後、熊本短期大学専任講師として水俣病の社会福祉調査に参加し、水俣病の実態を社会福祉の立場から考察。日本社会福祉学会・札幌大会において水俣病は公害病であると発表し、反響を呼んだ。その後、1980年に同志社大学文学部社会福祉学科教授として転任し、ケースワーク及び精神保健学における多く

の第一線の専門家を育成した。また、放送大学客員教授として、社会福祉入門—私たちの暮らしと社会福祉を8年にわたって放映した。こうした地域福祉についての卓越した知識を活かし、1980年に京都ボランティア協会の創設に関与し、京都府民向けのボランティア講座の開設など地道な啓発普及活動を継続。また、特に我が国の高齢化が進行する中での住民主体の地域福祉の大切さを唱えて、京都府内各地に出向いて地域福祉づくりのための助言活動を長年にわたり実施するなど、京都府民にボランティア文化やシティズンシップの意義が根付く礎を築いた。この他、文部科学省の大学設置審議会の専門委員、宇治市福祉サービス公社理事長、京都府社会福祉審議会委員長など多数の政府・地方自治体、福祉団体の要職を歴任し、社会福祉の分野において大きな功績をあげた。2016年秋の叙勲で瑞宝中綬章を受章。

- 1955年 関西学院文学部社会事業学科入学
- 1956年 日本初の視覚障害児キャンプ(朝日新聞厚生文化事業団主催)にキャンプカウンセラーとして参加
- 1959年 関西学院大学文学部社会事業学科卒業
- 1959年 財団法人浅香山病院医局臨床心理部精神医学的ソーシャルワーカーに就任
- 1960年 日本ソーシャルワーカー協会の創設に参加
- 1964年 熊本短期大学専任講師に就任。社会福祉とケースワークを担当
- 1964年 水俣病の社会福祉調査に参加
- 1968年 日本社会福祉学会・札幌大会において、水俣病の実態を社会福祉の立場から発表
- 1975年 トロント大学大学院に客員研究員として留学(1年間)
- 1980年 同志社大学文学部社会福祉学科の教授として転任
- 1980年 京都ボランティア協会の創設に顧問として関与し、2008年から12年間理事長を務める(現名誉会長)
- 1982年 同志社大学大学院後期課程の新設に関与
- 1987年 文部科学省大学設置審議会の社会学・社会福祉学分野の専門委員に就任(1990年まで)
- 1987年 一般社団法人京都医療ソーシャルワーカー協会会長に就任(1999年まで)
- 1995年 京都府障害者施策推進協議会座長に就任(現職)
- 1997年 一般財団法人宇治市福祉サービス公社の創設に関与し、理事長に就任(2019年より名誉理事長)
- 1999年 京都府介護保険審査会会長に就任(現職)
- 2000年 放送大学客員教授として社会福祉入門—私たちの暮らしと社会福祉を講義。計8年間にわたり放映
- 2000年 京都府社会福祉審議会委員に就任、2003年 同審議会委員長に就任(2018年まで)
- 2011年 特定非営利活動法人日本ソーシャルワーカー協会会長に就任(現職)
- 2012年 京都府あつたか京都推進会議座長に就任(現職)
- 2016年 秋の叙勲で瑞宝中綬章を受章



高齢社会をよくする女性の会・京都 前代表
認定特定非営利活動法人ウィメンズ・アクション
ネットワーク(WAN) 元理事長

なかにし とよこ
中西 豊子 氏

1982年、日本で初めての女性問題専門書店を開く。重要な著作の編集・出版活動の傍ら、関連書籍の情報誌「ウィメンズ・ブックス」を発行し、女性のネットワークの形成・拡大を進めてきた。また書店の二階を女性たちの活動に開放し、女性の交流とエンパワーメントに大いに寄与した。こうして形成されたネットワークは、後の「高齢社会をよくする女性の会・京都」や「ウィメンズアクションネットワーク」の土台となった。80年代後半、深刻化する高齢化と介護問題に対し、女性の視点から社会で支える介護を目指して「高齢社会をよくする女性の会・京都」を立ち上げ、啓発や政策提言活動、介護保険制度の見直しや問題点を考える例会等独自の活動を展開してきた。創設者のひとりとして長年理事長をつとめ、現在も事務所を提供して会の運営を支え続けている。

中西氏が一貫して取り組んできた、女性情報のネットワーク拠点としての書店の役割をウェブに拡大したのが、女性のためのポータルサイト「ウィメンズアクションネットワーク」(WAN)である。中西氏の発案と呼びかけに応じた数人の女性の京都での会合がその発端であった。ここでも長年の理事、理事長としての貢献に加え、事務所としての活動においても貢献している。2009年の設立から10年を経て、会員は全国、そして海外にも広がり、女性問題に関心を持つ人たちのネットワーク拠点として、相互交流とエンパワーの役割を果たしている。京都での全国に先駆けた女性問題への取り組みは、中西氏の深い知識と問題意識に基づく新しい着想、豊富なネットワーク、そして類稀なる情熱によって支えられてきたと言っても過言ではない。

- 1933年 京都市生まれ
- 1951年 京都府立山城高校卒業
- 1995年 仏教大学社会学部社会福祉学科卒業
- 1982年 日本初の女性問題専門書店であるウィメンズブックストア松香堂書店設立
女の本の情報誌「ウィメンズブックス」発刊
女性問題の専門書を多数出版
- 1989年 高齢社会をよくする女性の会・京都設立。運営委員に就任。事務局担当(現在に至る)
- 1990年 同会の代表に就任(2017年まで)
- 1990年 有限会社フェミニット企画設立
- 2001年 ウィメンズブックストア松香堂はドーンセンターに開店した「ウィメンズブックストアゆう」に事業を引き継ぎ閉店
- 2006年 著書『女の本屋の物語』(ウィメンズブックストアゆう)出版
- 2008年 ウィメンズブックストアゆう閉店
- 2009年 NPO法人ウィメンズアクションネットワーク設立、理事に就任(2020年まで)事務局担当(現在に至る)
- 2011年 同理事長(2013年まで)
- 2019年 令和元年度 京都新聞大賞福祉賞受賞

受賞者・団体一覧

1986年3月

■ヒューマン大賞

伊東 祐純 様 子供たちの健全育成とユネスコなどの活動
奥田 東 様 福祉思想の啓発活動
松井 かつ彖 様 中国留学生援助活動と両国の友好に貢献

1986年度

■ヒューマン大賞

嶋田 啓一郎 様 社会福祉の理論体系の確立に貢献
吉村 孫三郎 様 日中友好の架け橋的存在として活躍

1987年度

■ヒューマン大賞

亀山 千代 様 老人福祉活動
嶋津 峯真 様 精神薄弱児者の生活指導
湯浅 祐一 様 府民スポーツの振興に貢献

1988年度

■ヒューマン大賞

朝隈 善郎 様 陸上競技の指導者として貢献
立石 一真 様 心身障害者の雇用促進、社会福祉の向上に貢献
武間 富貴 様 幼児教育・女子教育の進歩向上に尽力

1989年度

■ヒューマン大賞

ジュリアス・マリー・バーガー 様 肢体不自由児及び重症心身障害児の福祉向上に貢献
四手井 綱英 様 自然保護の取組み、環境重視の啓発運動に貢献
八木 清 様 ボーイスカウト運動と子供たちの健全育成に貢献
■ヒューマンかざぐるま賞
大塚 全教 様 障害のある人に絵を通して生きる喜びを与える活動
荻野 忠夫 様 民生委員として地域福祉の向上に貢献
藤本 守 様 点字奉仕活動を続け障害のある人の自立に貢献
(社)京都市のちの電話 様 24時間体制での電話相談によるボランティア活動

1990年度

■ヒューマン大賞

川村 つや 様 障害児者のノーマライゼーションに貢献
栗林 四郎 様 全国身障者スポーツ大会に貢献
中川 正文 様 京都の児童文化と児童福祉の風土作りに貢献

■ヒューマンかざぐるま賞

桑原 秀雄 様 盲導犬の普及に貢献
田中 伊太郎 様 民生児童委員として地域福祉の向上に貢献
守袖 三郎 様 教育者として難聴児の教育と生活指導に貢献

1991年度

■ヒューマン大賞

岩井 郁子 様 ガールスカウト運動を通じ感性豊かな子女の育成に貢献
芝田 徳造 様 障害者スポーツの普及、指導に貢献
園部 道 様 乳幼児の健全育成に創意工夫など児童福祉事業の運営

■ヒューマンかざぐるま賞

池見 孝治 様 老人福祉運動の先駆者として老人福祉組織の基盤整備の充実
石津 利幸 様 点友会会長 田島 ノブ 様商工会議所婦人部の結成など地域福祉や女性の地位向上に貢献
京都こんには会 様 高齢者に生きがいと愛とふれあいを与えるボランティア活動

1992年度

■ヒューマン大賞

岡本 由鶴子 様 ボランティア活動を通じ、地域福祉の向上に貢献
高井 隆秀 様 高齢化社会に対応する福祉施策の基盤を確立
藤田 静夫 様 スポーツ界のリーダーとして体育振興に貢献

■ヒューマンかざぐるま賞

赤松 マサエ 様 精神障害児者の自立と生活指導に尽力
山本 徳治 様 自治会長として地域社会活動・福祉の風土作りに貢献
寮育キャンプリーダーグループ 様 京都障害児福祉協会寮育キャンプでのボランティア育成・指導

1993年度

■ヒューマン大賞

蟹江 廣吉 様 身体障害者福祉法による援護施策の改定に尽力
高島 雅行 様 児童、制度の保健教育の普及に貢献
馬庭 京子 様 誕生日ありがとう運動を通じ障害者の自立の援助

■ヒューマンかざぐるま賞

岡 たね 様 母子寡婦家庭の文化的生活の安定と婦人の地位向上
寺澤 武雄 様 アイバンクでの献眼登録、角膜提供に貢献
京都SGGクラブ 様 善意通訳にて京都の歴史文化の理解を深める活動
京都中国料理廚師会琢磨会 様 長年の老人ホーム・養護施設での中国料理の出張

1994年度

■ヒューマン大賞

大塚 達雄 様 京都障害児福祉協会を独立発展、福祉事業の中核組織に育成
信ヶ原 良文 様 児童、青少年の健全育成等、全国に先駆け夜間保育を開設
蜂須賀 弘久 様 体育教育を通じて府民の体位、健康の向上に貢献
山本 公子 様 全国初「国際女子留学センター」での留学生に多大の援助
■ヒューマンかざぐるま賞
中澤 真琴 様 府盲人協会の音楽部の設立で視覚障害者福祉の増進
平田 哲 様 アジアにおける国際福祉の先駆的取り組みに貢献
京都おもちゃライブラリー連絡協議会 様 障害児の発達援助や相互理解、融合に貢献

京都河川美化団体連合会 様 河川美化運動を通し市民参加の町作り運動に貢献

1995年度

■ヒューマン大賞

高橋 美智子 様 京都のわらべ歌の収集、採譜等地域文化の保存に尽力
長橋 榮一 様 障害者の自立生活運動のリーダーとして活動
樋口 和彦 様 ホスピス運動や癌患者のクオリティ・オブ・ライフ向上に尽力

■ヒューマンかざぐるま賞

秋田 幸代 様 PTA組織の活性化、女性の地位向上に貢献
柴橋 悦子 様 共同作業所での重度身体障害者の自立と生活指導に貢献
高石 ともや 様 日本各地で青少年健全育成、福祉文化の向上に貢献
堀川福祉奉仕団 様 老人福祉運動の先駆的ボランティアとして高齢者福祉に貢献

1996年度

■ヒューマン大賞

畦田 正雄 様 孤児院イメージを払拭、「平安徳義会」を名実兼備の施設に育成
金井 秀子 様 女性の地位向上、男女共同参画社会の実現に先導的役割
清水 榮 様 広島・ビキニ環礁調査が核兵器・戦争廃絶の呼びかけの端緒となる

■ヒューマンかざぐるま賞

永田 哲也 様 知的障害者施設での先駆的な散髪ボランティア活動
早狩 実紀 様 連続10回都道府県対抗女子駅伝の代表選手
KBSカタツムリ大作戦 様 交通事故撲滅キャンペーンやかたつむり基金で交通遺児奨学金に貢献

1997年度

■ヒューマン大賞

榊田 八重子 様 古武道としての薙刀をスポーツ的性格をもなすべく腐心
中西 美世 様 京都商工会議所婦人会組織化に奔走、地域繁栄と福祉、文化増進に寄与

早川 一光 様 地域医療、老人福祉に尽力

■ヒューマンかざぐるま賞

あまんきみこ 様 童話を通じて子ども達の人間性の健全育成などに貢献
京都BBS連盟 様 少年の非行問題に取り組み、青少年健全育成に貢献
(社)京都ボランティア協会 様 ボランティア活動の普及拠点として心豊かな社会を実現

1998年度

■ヒューマン大賞

内山 茂生 様 地域スポーツの振興と障害者スポーツの振興に尽力
小倉 美津子 様 女性スポーツ団体の組織化と振興に尽力
廣瀬 義彦 様 京都中央少年少女合唱隊を設立

■ヒューマンかざぐるま賞

玉中 修二 様 視覚障害者の福祉向上に貢献
京都アマチュア・マジシャンズクラブ 様 趣味を生かしたボランティア活動で社会福祉活動
重度身体障害者マリアの会 様 生活、作業、精神指導を行い重度身体障害者の自立に貢献

1999年度

■ヒューマン大賞

伊藤 さかえ 様 主婦連創立と同時に入会し、実績を積まれた地域の活動家
柴谷 篤弘 様 科学者と釈迦の関係に着目し環境問題を高い見地から見据えてリード

■ヒューマンかざぐるま賞

関 五郎 様 40年の長きにわたり身体障害者福祉の充実に尽力
西村 ゆり 様 音楽会での障害者のための点字プログラムの作成
(社)呆け老人をかかえる家族の会 様 老人痴呆症の介護者の支援に尽力

2001年度

■ヒューマン大賞

浅岡 美恵 様 京都議定書の採択に気候ネットワークの代表として活躍
大谷 藤郎 様 ハンセン病患者、回復者の人権擁護に取り組み
大谷 實 様 犯罪の被害者、家族の人権を守り、経済的、精神的支援で活躍

■ヒューマンかざぐるま賞

(社)京都府建築士会女性部会 様 UDIによる環境に調和した町づくりで女性の地位向上
だん王友の会 様 半世紀にわたりユニークな活動を通じて青少年健全育成
堀川と堀川通を美しくする会 様 河川美化による世界遺産の保全や新しい町作り運動

2002年度

■ヒューマン大賞

上田 正昭 様 人権問題の擁護活動や研究、社会貢献で活躍
佐藤 登久代 様 JDA代表としてカンボジアにおいて地雷除去、学校建設、村づくり
高田 英一 様 国際舞台上で聴覚障害者の福祉向上や人権擁護に活躍

■ヒューマンかざぐるま賞

介助犬をそだてる会 様 介助犬の育成インフラ作りと普及
梶 寿美子 様 自ら障害を克服し、障害者に希望を与え障害者の社会参加に貢献
橋詰 良彦 様 森林セミナーなどボランティア活動で自然環境保全に貢献

2003年度

■ヒューマン大賞

嘉田 由紀子 様 世界子ども水フォーラム開催で世界の子供達の交流に貢献
黒田 隆男 様 精神障害者の受皿としての共同作業所作り運動に取り組む
吉岡 壽恵 様 長く児童や幼児の教育に携わり「躰」を重視した幼児教育を実践

■ヒューマンかざぐるま賞

京都自然教室 様 自然観察を通して自然の豊かさを感じる感性を持つ子ども達を育成
ザイラーご夫妻 様 日吉町かやぶき音楽堂で地域文化の活性化や伝統生活保護に貢献
吉松 時義 様 車椅子駅伝で障害者を勇気づけ、心のバリアフリーを訴える

2004年度

■ヒューマン大賞

上平 貢 様 青少年の健全育成と京都市の芸術文化振興に貢献
平田 真貴子 様 京都いのちの電話開設で自殺予防に尽力
和田 恵美子 様 衣装デザイン分野で活躍され、女性の地位向上に貢献

■ヒューマンかざぐるま賞

京都家庭文庫地域文庫連絡会 様 母親たちによる家庭文庫活動で青少年の健全育成に貢献
京都ライトハウス 様 視覚障害者福祉の向上に貢献
京のアジェンダ21フォーラム 様 「京のアジェンダ21」の実践母体として活躍

2005年度

■ヒューマン大賞

小野 了代 様 25年間にわたり、市民の立場でヨルダン、アフガニスタン、イランなどで災害や紛争後の緊急支援に始まる自立支援化活動で貢献
藤本 文明 様 ベトナムにおける障害児教育、福祉支援に貢献
湯川 スミ 様 世界連邦運動で会長として地球平和、紛争解消を世界にアピール

■ヒューマンかざぐるま賞

京都市手話学習会「みみずく」 様 日本初の手話サークルとして、聴覚障害者との交流活動などで福祉向上に貢献
京都市要約筆記サークル「かたつむり」 様 要約筆記などの活動で聴覚障害者の福祉向上に貢献

里山ネットワーク世屋 様

過疎が進む宮津市世屋で、伝承技術の継承保存や棚田でのコメ作りで地域再生に貢献

2006年度

■ヒューマン大賞

北村 よし彖 様 「オーリーブの会」共同作業所を開設し、精神障害を持つ人々を支援
竹下 義樹 様 日本で最初の全盲の弁護士として、視覚障害者、社会的弱者を支援
徳川 輝尚 様 わが国初の「身体障害者療護施設こひつじの苑」を開設、療護施設利用者の生活の質向上や施設従事者の勤務条件改善に尽力

■ヒューマンかざぐるま賞

NPO法人丹波マンガン記念館 様 マンガン鉱山における在日コリアン、被差別部落出身者らの労働の実態や歴史などの資料展示で差別や人権問題の啓発活動に尽力
人形劇団京芸 様 昭和24年の創立以来、一貫して小・中学校の視聴覚教育として学校公演を継続
ユース21京都 様 京都市成人の日式典や全国車いす駅伝競走大会で移送、介助、式典のボランティア活動

受賞者・団体一覧

2007年度

■ヒューマン大賞

玄武 淑子 様 女性として初めて京都市老人クラブ連合会会長に就任、京都市の老人クラブの育成と老人福祉の推進に貢献

中川 恵次 様 「菟道明星園養護老人ホーム」の理事長に長く就任し、宇治の老人福祉、地域文化や町づくりに貢献

吉永 太市 様 知的障害者施設の指導者として、粘土を使った造形表現指導とその作品展覧会の開催

■ヒューマンかざぐるま賞

株式会社ウイメンズカウンセリング京都 様

カウンセリング、各種講座の開設などの活動で、性暴力やDV被害女性を救済支援

社会福祉法人 京都ハチの会 様

授産施設の自主運営を始め、京都市内で初の精神障害者福祉ホームで地域医療に貢献

京都市子育てネットワーク 様

京滋の子育てサークルのネットワークとして、地域の「子育て、親育ち」できる仲間作りを応援

2008年度

■ヒューマン大賞

芹澤 栄之 様 50年の長きに亘り、献身的に母子支援に取り組む

所 久雄 様 35年に亘り、福祉にかかる人材の育成、新しい福祉の研究、障害者の自立を目指した地域福祉の向上に取り組む

中畔 都舎子 様 30年以上の地域婦人会活動を通じて、男女共同参画社会の推進に貢献

■ヒューマンかざぐるま賞

春日住民福祉協議会 様

自治体活動をベースに、自治・福祉・防災の三位一体の事業で、高齢者・障害者・子どもたちが安全で安心して暮らせる春日の町づくりに取り組む

京都こどもセンター 様

のびやかで豊かな子ども時代を過ごすことの出来る社会環境づくりに貢献

京都障害者スポーツ振興会 様

障害のある人々にスポーツの素晴らしさや楽しみを伝え、障害者スポーツの輪を拡大

2009年度

■ヒューマン大賞

岩本 富雄 様 環境カウンセラーとして地球環境整備に貢献

高見 国生 様 認知症の当事者と家族の支援活動、啓発普及運動を積極的に推進

人見 君子 様 障害児教育の草分けとして61年にわたって障害者支援を継続

■ヒューマンかざぐるま賞

京都市里親会 様

家庭に恵まれない児童の福祉向上のため、43年間に亘り地道な活動を維持継続

NGO緑の協力隊・関西澤井隊 様

アジア各国で砂漠緑化の活動を行い、苗木7790本を植林し地球温暖化防止に貢献

NPOリボーン・京都 様

開発途上国の生活困窮者に対して洋裁等の職業訓練を行い、経済的自立の促進や貧困の撲滅に貢献

2010年度

■ヒューマン大賞

谷垣 雄三 様 西アフリカ・ニジェールで30年にわたる医療活動を私費や京都・峰山の同級生の寄付金で運営を継続

宮井 久美子 様 京都ボランティア協会において中心的役割と使命を果たす

友久 久雄 様 子供から老人までを対象とした人間味溢れる幅広い活動で、地域社会福祉に大いに貢献

■ヒューマンかざぐるま賞

竹文化振興協会 様

「竹」に関する文化・芸術、産業開発、研究・教育の全般について啓蒙活動を展開

朗読ボランティア「さえずり会」 様

ボランティア活動として視覚障害者にとって役立つ暮らしの情報発信や活動の援助に貢献

唐橋社会福祉協議会 様

住民自治に根ざし地域住民の誰もが安心して暮らせる街づくりに貢献

2011年度

■ヒューマン大賞

玉川 和子 様 京都府民の健康の保持増進及び疾病予防に大いに貢献

野木 武 様 京丹後市で環境保全型農業やユニークな技術導入により地球温暖化対策を実践

森 昇 様 私財を投じ心身障害者の就労モデルを構築し、共生社会を構築

■ヒューマンかざぐるま賞

公益財団法人 関西盲導犬協会 様

発足から30年以上にわたり質の良い盲導犬の育成・盲導犬指導員の養成に貢献

認定NPO法人 きょうとグリーンファンド 様

「省エネ・節電・自然エネルギーの普及」目的で多くの「おひさま発電所」を設置し、地域の環境学習に貢献

修学院第二学区社会福祉協議会 様

高齢者介護予防などの福祉活動、中学生とのアルミ缶収集の資金援助活動などを実践

2012年度

■ヒューマン大賞

武田 道子 様 京都市域で福祉・教育・文化など多方面で奉仕活動に貢献

細井 恵美子 様 高齢者福祉施設及び在宅介護の包括的な取り組みに貢献

吉田 秀子 様 女性の社会参加支援、子育て応援、元気づくりの3つ事業を柱に展開

■ヒューマンかざぐるま賞

特定非営利活動法人 京都難病連 様

難病を抱える患者や家族を支える相談事業などを展開し、交流会の開催・サポーター養成の研修会開催などの活動を実践

城陽点字サークル たんぼぼ 様

視覚障がい者の生活、文化、社会参加に不可欠な情報提供に貢献し、点字楽譜の先駆けとして料理レシピなど多彩な点字活動を実践

特定非営利活動法人 山科醍醐こどものひろば 様

山科醍醐地区を中心に、子ども達の发育環境の充実に取り組み、特に生活貧困問題への取り組みを実践

2013年度

■ヒューマン大賞

加藤 博史 様 大学で福祉教育に携わりながら、地域福祉実践活動も重視し、京都におけるボランティア活動振興の基盤づくりに貢献

谷岡 孝子 様 病院ボランティアコーディネーターとして、患者と病院、ボランティア間の調整役を務める

野上 芳彦 様 終戦直後から長年にわたり、知的障害児の福祉や教育問題について実践し、社会福祉関連の要職を歴任し、京都の福祉向上の先頭に立って貢献

■ヒューマンかざぐるま賞

特定非営利活動法人 環境市民 様

日本の環境NPOの草分け的存在として、持続可能で豊かな社会・生活の実現に貢献

社団法人 京都精神保健福祉推進家族会連合会 様

50年に亘り、精神障害者への偏見をなくし、障害者の生活の自立や社会参加に貢献

社会福祉法人 るんぴに苑 様

京都府下で唯一の情緒障害児短期治療施設として、虐待や育児放棄などにより発達に障害をきたし、家庭や社会から疎外されていた児童・生徒の育て直し

2014年度

■ヒューマン大賞

小國 英夫 様 在宅要介護高齢者のために、「生涯地域居住」を掲げて、地域に密着した独創的な活動を展開

櫛田 匠 様 乳児や児童、高齢者のための施設を運営し、京都府北部で人々が幸福であることを目指して先頭に立って活動

高木 徳子 様 自閉症研究に関する第一人者として、自閉症児のためにフィールドワークに重点をおいた活動を実践

■ヒューマンかざぐるま賞

特定非営利活動法人 コンシューマーズ京都 様

水銀を含む蛍光灯の適正処理・再資源化を求める各種活動を継続

特定非営利活動法人 テラル・ネッサンス 様

主に紛争地域において、地雷除去、子ども兵の社会復帰、紛争被害者の自立など幅広い支援活動を行い、多くの課題解決に貢献

社会福祉法人 ゆりかご保育園 様

40年以上にわたり、難病を抱えた障がい児など多くの障がい児を受け入れ、健常児と一緒に保育することで、「みんな一緒に育つ保育」を実践

2015年度

■ヒューマン大賞

出店 知之 様 障がいのある子どもを兄弟にもつ健常児を対象とする自然体験型キャンプの「冒険キャンプ」を現場指導・責任者として30年にわたって実施

松井 三郎 様 京都府民の水源である琵琶湖の水質改善に貢献。その成果や経験を国際的に普及させ、途上国ではエコロジカル・サンテーションを普及させている

森田 美千代 様 1983年に日本で初めて障がい者シンクロナイズドスイミングに取り組み、1992年からは京都で全国的な大会を開催し、身障者シンクロの一層の普及に尽力

■ヒューマンかざぐるま賞

大山崎竹林ボランティア 様

安全な伐採作業マニュアルの作成など大山崎町の荒唐竹林(竹藪)の整備に貢献

特定非営利活動法人 子育て支援コミュニティ おふいすパワーアップ 様

子どもを持つ幸せを感じられる親を増やすために子育てに関する多くの情報を発信

フィールドソサイエティー 様

寺林や里山といった身近なフィールドで環境学習活動を継続

2016年度

■ヒューマン大賞

石倉 紘子 様 自死遺族サポートチーム「こころのカフェ きょうと」を設立し、家族や身近な人を自死自殺で失った遺族を支援する活動に注力

佐々木 和子 様 「京都ダウン症児を育てる親の会」(トライアングル)の初代会長として、親が孤立せず、安心して楽しく子育てができるよう尽力

深尾 昌峰 様 京都における初めての中間支援組織「きょうとNPOセンター」や「公益財団法人京都地域創造基金」を設立するなど、市民活動団体やボランティア団体の活動基盤の構築に貢献

■ヒューマンかざぐるま賞

認定NPO法人 アンビシャス 様

人と動物が共生するやさしい社会の実現を目指し、高齢者施設やホスピスなど病院施設へのドッグセラピー活動を通じて、こころと身体を癒すための活動を展開

特定非営利活動法人 地域環境デザイン研究所 ecotone 様

祭やイベントを対象に、使い捨て容器を繰り返し使える「リユース食器」に置き換える仕組みを全国に先駆けて構築し、大幅なごみ削減を実現

にこにこトマト 様

京大病院小児科に入院中の子どもたちと付添いのご家族のために「楽しく豊かな時間」を届けるため、平日のほぼ毎日、バラエティーに富んだ「遊び」を提供

2017年度

■ヒューマン大賞

桑原 教修 様 長年にわたり児童福祉分野のリーダーとして、社会的養護を必要とする子どもたちに寄り添い、よりよい育ちと自立

新藤 崇代 様 障害のある子どもたちが、音楽(ピアノ等の楽器演奏や歌)を通して楽しい時間を過ごし、心身ともに安定して過ごせるよう、音楽指導を20年に亘って実践

■ヒューマンかざぐるま賞

認定NPO法人アクセスー共生社会をめざす地球市民の会 様

フィリピンに貧しい地域で子どもに教育を、女性に仕事を提供し、住民たちで課題解決する取り組みを目指して活動を展開

特定非営利活動法人 京都DARC 様

薬物を止めたいけど止められないという依存症に陥った人たちの回復を支える拠りどころ、居場所作りを目的に活動を展開

京都YMCAこおろぎ 様・京都YMCA長岡こおろぎ 様

朗読ボランティアグループとして約30年間に亘り、視覚障害者(リスナー)に様々な情報を録音・編集して発信

2018年度

■京都ヒューマン賞

鷲巢 典代 様 "認知症の人にやさしい地域づくり"に関する活動を続け、日本の認知症施策や「家族の会」など認知症関係団体の活動について発信

京都YWCA・APT 様

26年間に亘り、外国にルーツのある方が日本で暮らす中で直面する問題について、多言語電話相談などで支援

特定非営利活動法人 八幡たけくらぶ 様

男山周辺の里山の環境を保全するため、竹林の整備や子ども向けの竹細工教室を開催

2019年度

■京都ヒューマン賞

山田 尋志 様

施設での高齢者個別ケアの実現や地域密着型拠点の展開など、既存制度の枠組みを超えた提言とその実践により、

わが国の社会福祉を向上・発展させてきた

社会福祉法人 えのき会 様

重い障害のある人が、地域で当たり前にも暮らせることを目指して「複の会」を結成して以来、障害のある人や家族を支える支援を充実させてきた

はだしのコンサート実行委員会 様

「貴方の拾ったゴミが入場券」を合言葉に、琴引浜に漂着したゴミを拾い集め、その種類や量を調査するビーチクリーンアップ活動と手作りの環境啓発コンサートを開催してきた

2020年度

■京都ヒューマン賞

工藤 充子 様 少子高齢化が進む社会にあって、孤立する家族に寄り添い、行政と市民が連携し、安心できる住みよいまちづくり活動を行ってきた

特定非営利活動法人 京都マック 様

さまざまな依存症から回復するためのプログラムを提供し、依存症者が心と身体の健康を取り戻すための支援事業を実施。広く依存症に関する啓発活動も展開してきた

京都森林インストラクター会 様

専門知識や技術を生かし、森林・林業の大切さや森林での楽しみ方を伝える幅広い普及・指導活動を行い、京都の貴重な森を守り育ててきた

京都オムロン地域協力基金について

社会貢献活動を行っている皆様に応援しています。

公益財団法人京都オムロン協力基金は、京都府内において、地域の社会福祉、青少年の健全育成、男女共同参画の推進、生活環境・地球環境の整備を対象分野に、顕彰事業や助成事業を行い、地域社会の発展に寄与することを目指しています。



公益財団法人 京都オムロン地域協力基金

所在地：京都市下京区油小路通塩小路下る
TEL:075-343-7211 / FAX:075-365-7234

理事長：立石 文雄 (オムロン株式会社 取締役会長)

沿革：1984年3月 財団法人伏見信用地域協力基金として設立
2000年12月 財団法人京都みやこ地域協力基金を経て、
財団法人京都オムロン地域協力基金として承継
2011年10月 公益財団法人へ移行

基本財産：2億3,500万円 (財団法人京都みやこ地域協力基金から承継)

特定資産：オムロン株式会社株式 20万株 (立石信雄氏から寄贈)

ホームページ：<https://www.omron.com/jp/ja/about/social/fund/>

■ 顕彰事業

オムロン基金の事業対象分野を中心として、広く社会貢献活動をされ、顕著な功績のあった京都と関わりのある個人や団体・グループを「京都ヒューマン賞」として顕彰しています。顕彰を契機にさらに活動が活性化され、また活動の芽が育まれることも期待しています。

外部有識者による当基金の選考委員会において選考審査を行い、理事会において最終決定します。



京都ヒューマン賞贈呈式

■ 助成事業

京都府内において、社会貢献活動をされている団体や個人に対して、イベントを開催される際の費用支援として、助成金を提供しています。

環境保全活動のために必要な機材・備品の購入費用に対し、また、経済的に困窮している女性たちが、社会的課題の解決に向けて交流するための経費の一部も助成しています。

2018年度からは、「オムロン基金 子ども食堂助成制度」を創設し、子ども食堂の開設および運営費用の一部を助成しています。

留意事項

- 原則として、イベントについては助成金額はイベント事業予算の50%以内です。
- 施設の改修工事等の資産的要素となるものには助成しません。
- 助成対象となるイベント終了後、原則1ヶ月以内に、事業報告書および収支報告書、領収書のコピーを提出いただきます。

※詳しくはホームページの「助成制度について」をご参照ください。

<https://www.omron.com/jp/ja/about/social/fund/>

助成テーマ例



子ども食堂への助成

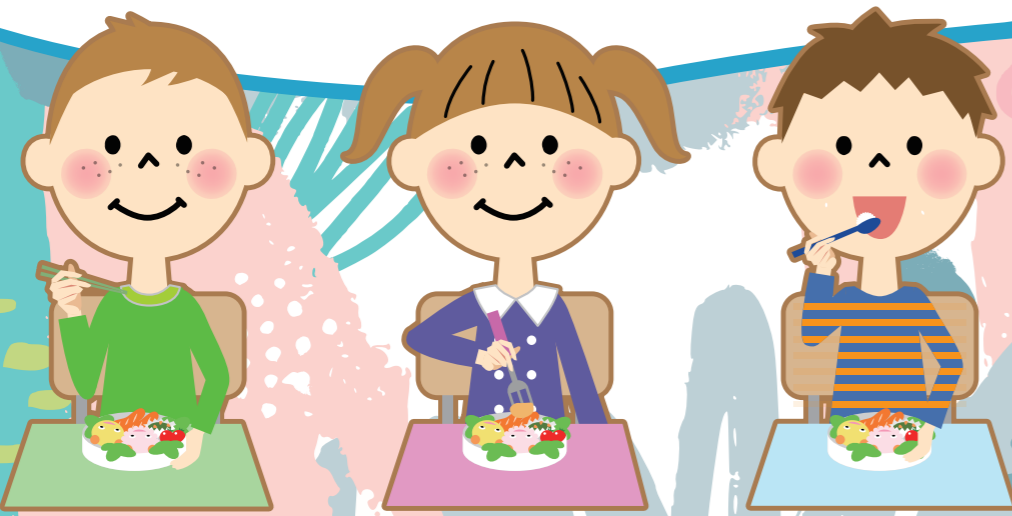
ダウン症啓発のパティウォークイベント

子ども食堂助成制度

子ども食堂を応援します

2021年度

オムロン基金 子ども食堂助成制度



公益財団法人 京都オムロン地域協力基金（オムロン基金）は、様々な事情から食事の問題を抱える子どもたちやその保護者等のために、子ども食堂を開設および運営するための費用の一部を助成します。

2021年度は、新型コロナウイルス対策費用等を考慮し、助成上限金額を引き上げます。子ども食堂を開催される際には、十分な感染対策を講じていただきますようお願いいたします。

京都府や京都市などから子ども食堂の開設および運営費用に対する補助金を受給している、または受給予定である子ども食堂もオムロン基金の助成制度に申し込むことができます。

年間事業実施計画や収支予算書などの書類については、京都府の「きょうとこどもの城づくり事業（きょうと子ども食堂）」の補助金申請書類を共用します。オムロン基金に助成申請される際には、オムロン基金独自様式の申請書類と併せて、京都府の申請資料をご提出ください。事業実績報告書を提出の際も同様です。

応募書類はオムロン基金のホームページからダウンロードができます

<https://www.omron.co.jp/about/social/fund/>

助成対象

- 京都府内で法人や団体が非営利活動として開設・運営する子ども食堂であること。
注：個人での活動は対象とはなりません。
- 毎月1回（年間12回）以上、1回あたり2時間以上、主に低所得世帯やひとり親家庭の子どもおよびその保護者等を対象とする子ども食堂を開設予定または運営していること。
- 毎回、概ね20食以上（スタッフ分を含む）の食事を無料または低料金で提供すること。
- 子どもたちや保護者等に子ども食堂の開催案内を行い、周知に努めること。
- 食品衛生責任者養成講習会修了者など食品衛生責任者となることができる資格を有する者を子ども食堂の食品衛生責任者として定め、衛生面等で調理従事者の指導に努めること。
- 食品衛生管理（調理場所を含む）および食物アレルギー等について、保健所の指導を受けること。
- ボランティア保険等の保険に加入すること。
- 利用者およびスタッフの体温測定や手洗い、換気の徹底、アルコール消毒液等を用いた清掃、3つの密の回避など、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を図ること。

次に掲げる子ども食堂は 助成対象としないものとします

- 特定の政治的活動や宗教の布教を主たる目的とする団体等が子ども食堂を実施している場合。
- 暴力団等の反社会的勢力と関係がある、または関係の疑いがある個人や法人、団体が関係するもの。
- その法人または団体に助成することにより、不偏不党という当基金の立場に影響を及ぼす可能性があると思われる場合。
- 助成審査過程において、助成対象としてふさわしくないとの意見が付されたもの。

助成上限金額

年間利用人数により、年間助成金額の上限を設定します。

年間利用人数	助成上限金額
300人未満	12万円
300～499人	16万円
500～999人	20万円
1,000～2,999人	30万円
3,000～4,999人	40万円
5,000～6,999人	60万円
7,000～8,999人	80万円
9,000人以上	100万円

助成内容

● 助成対象経費

運営費助成：調理用消耗品購入費、調理器具・什器類購入費（事前に認められたもの）、食材購入費、水道光熱費、会場使用料、保険料、広報・通信費、謝金、旅費・交通費等
開設費助成：調理用消耗品購入費、調理器具・什器類購入費、軽微な建物修繕費、営業許可申請等に関わる経費等
京都府の「きょうとこどもの城づくり事業」の補助金対象外経費となるものについても、オムロン基金の助成対象となるケースがあります。事前にオムロン基金事務局までご相談ください。

● 応募受付期間

随時受付
※ 助成申請までに前年度の実施報告を提出していること。

● 応募方法

つぎの申請書類を当基金事務局までご提出ください。
1) 【オムロン基金様式①】助成申請書（子ども食堂用）
2) 【京都府第1号様式②-1】年間事業実施計画
3) 【オムロン基金様式②】実施体制、参加費
4) 【京都府第1号様式③】収支予算書（運営費）
【京都府第2号様式②】収支予算書（開設費）
【オムロン基金様式③】京都府補助金対象外経費 予算書

審査について

- 提出された応募書類について当基金事務局で事前審査を行った後、外部有識者に助成適正評価を依頼します。
- 外部有識者により助成適正の評価を得た子ども食堂に関して、専務理事に意見具申を行った後、理事長の決裁により助成決定します。なお、助成申請金額を減額して助成金額を決定する場合があります。
- 助成が決定した後、事務局から申請者に助成決定通知を行います。併せて、お届けの振込先銀行口座に助成金の振込手続きを行います。（前払いです）

事業報告

- 事業完了後1ヶ月以内に、事業報告書（事業実績等）、収支決算書、支出を証明する書類（領収書）のコピーなどを当基金事務局までご提出ください。

提出方法および提出先

- 電子メールの場合 omron-kikin@omron.com
- 郵送の場合
〒600-8234 京都市下京区油小路通塩小路下
公益財団法人 京都オムロン地域協力基金 事務局宛

お問い合わせ

公益財団法人 京都オムロン地域協力基金 事務局あて

〒600-8234 京都市下京区油小路通塩小路下

電話 075-343-7211 携帯 090-8745-0147 E-mail : omron-kikin@omron.com